



式典後には子どもたちの和太鼓演奏などが披露された

子どもたちの成長と巣立ちを見守って150年 内子小の歴史を振り返り節目を祝う記念式典

内子小学校(山田^{さとこ}智子校長、児童322人)の開校150周年記念式典が2月22日、同校で行われ、児童や地域住民らが大きな節目を祝いました。式典では山田校長が「内子小は地域に守られ、ともに育ってきた。輝かしい歴史を刻む本校の節目の年を皆さんとお祝いできてうれしい」と式辞を述べました。同校の前身は明治5年に開校。校名や場所を変えながら1万2,300人を超える卒業生を送り出しています。



小野植正久町長にマスクを渡す松田さん(左)と徳田さん

「私たちが地域のためにできること」 内子中学校の生徒たちの思いに感謝

内子中学校を代表してエコ委員の松田^{まな}愛さんと徳田^{あやの}彩音さんが3月15日、内子町役場を訪れて不織布マスク5箱を寄贈しました。同校では毎月3回、アルミ缶やエコキャップの回収をしていて、収益金を生徒会活動などに使っています。今年はそのお金でマスクを購入したという松田さんは「地域に貢献できるよう回収を続けた。頑張っている人々のために役立ててほしい」と思いを伝えました。



1



2

3

4

1、2_立川幼稚園の開園式に参加した皆さん。リモートで参加した小学生も駆け付けてくれた。閉園記念としてアクリル画と椅子が設置された 3、4_石畳へき地保育園ではアジサイを植樹。式では園児たちの歌声が響いた

立川幼稚園と石畳へき地保育園が閉園 たくさんの思い出をありがとう——

立川幼稚園と石畳へき地保育園の閉園式が行われ、園児たちが「ありがとう。楽しかった」と思い出深い園舎に別れを告げました。

立川幼稚園の式は3月23日に行われ、立川小学校の児童を含めて約50人が参加しました。式では中本^{かつや}克也園長が「閉園してもここでの歴史や思い出を大切にし、これからも語り継いでほしい」とあいさつ。思い出のライドショーや、寄せられたメッセージの展示などが行われました。最後の園児となった宮岡^{じょうじろう}丈蒔郎さんと林莉紗ちゃんは「今までたくさんの思い出をありがとう。大好きだよ」と大きな声で感謝の気持ちを伝えました。

同25日に行われた石畳へき地保育園の式には22人が参加。河野^{いづる}生弦くんと山田^{あゆた}歩太くん・遥^{はるか}太くんが保育園での思い出を発表し、『たびだちのうた』を力いっぱい歌いました。最後に園児たちは先生たちと一緒に保育園の庭にアジサイを植樹しました。保護者の山田^{ひろのり}浩徳さんは「閉園はとても残念。子どもたちは4月から環境が変わるけれど、いろいろなことに挑戦してほしい」と話しました。

作って学ぶ道具の大切さ—— 体験会で思い出のグラブ作り

「グラブづくり体験会」が2月13日に内子・五十崎の両自治センターで開かれ、計28組56人の親子が参加しました。野球やソフトボールに親しんでほしいと、町内のソフトボールクラブが主催。網と指の部分に糸を通す作業を体験した後、完成したグラブを参加者にプレゼントしました。高松^{たかのみ}滯くん(内子小2年)は「お父さんとキャッチボールするのが楽しみ。大切にしたい」と笑顔でした。



難しい作業は親子で協力してグラブを仕上げていた

ともに戦う医療従事者へのエール 大洲喜多法人会が加工食品を寄贈

新型コロナに最前線で対応する医療従事者を応援しようと2月15日、(公社)大洲喜多法人会が加戸病院に加工食品250セットを寄贈しました。地元企業を応援する意味もあるそうで、同会長の久保^{のぼる}登さんは「大洲市の病院と合わせて1,195セットの加工品を寄贈した。病院も企業も見えない敵との長い戦いで大変だけど、めげずにとともに頑張りましょう」とエールを送りました。



寄贈品を受け取る加戸病院事務長の犬野^{りゅうじ}隆司さん(左)

紙面でも町の文化をつなぎたい 内子町文化協会が初の紹介冊子を発行

内子町文化協会が2月28日、合併後初めての紹介冊子『つなぐ文化』を発行しました。紙面では芸能関係32団体、美術関係21団体、文芸文化関係9団体の活動内容などを紹介しています。会長の亀岡^{ただしげ}忠重さんは「内子町の文化をつなぎ、仲間の輪が広がることを期待している。各自治センターで手に入るの、各団体への興味の扉になればうれしい」と思いを語りました。



完成を喜ぶ亀岡会長(左)と編集委員長の山田清昭さん

レンガのある風景を描いて 五十崎中の森石さんが最高賞受賞

『レンガのある風景』はがきコンクール(赤煉瓦倶楽部おおず主催)が開かれ、五十崎中3年の森石^{ひな}陽菜さんが最高賞にあたる大洲市長賞を受賞しました。審査委員長の山田^{きよあき}清昭さんは「一般の部に秀作が多い中、中学生が最高賞を取ったのは素晴らしい」とたたえます。森石さんは「祖母の影響で風景画を描くのが好き。自信はなかったけれど、評価してもらえてうれしい」と喜びました。



賞状を手に「祖母のように絵を楽しみたい」と話す森石さん